

「県民と県議会との意見交換会」 宮古会場 の概要

- 〔日 時〕 令和元年5月8日(水) 13:30~15:30
- 〔場 所〕 宮古地区合同庁舎 大会議室
- 〔テーマ〕 新たな交通ネットワークや大型イベントを活用した地域振興について
- 〔参加者〕 (8名)
- 宮 本 淳一郎(宮古商工会議所中小企業相談所 所長)
- 熊 谷 浩(岩泉商工会 監事)
- 大 戸 浩(田野畑村商工会 副主幹兼経営指導員)
- 島 崎 準(一般社団法人宮古観光文化交流協会 次長)
- 川 石 睦(一般社団法人山田町観光協会 会長)
- 小 原 一 良(川崎近海汽船株式会社 宮古支店長)
- 佐々木 尚 敬(株式会社岩手県北観光 宮古支店長)
- 金 野 淳 一(三陸鉄道株式会社 運行本部長)
- 〔出席議員〕 (8名)
- 城内よしひこ議員、伊藤勢至議員、小野共議員、臼澤勉議員、佐々木努議員、
田村勝則議員、斉藤信議員、樋下正信議員
- 〔オブザーバー議員〕 なし
- 〔事務局職員〕 (8名)

◆ 参加者自己紹介及び現在の業務や活動状況の紹介

○宮本さん

宮古商工会議所では、宮古室蘭間のフェリー航路就航を受けて、県と宮古市の協力を得て、昨年7月14日に室蘭市で宮蘭商談会を開催した。宮古・下閉伊管内の水産加工業者15社、菓子製造業者4社に室蘭市に行ってもらい、商談を行ってきた。来場したバイヤーは少なかったがいくつかの商談の成約もあり、新たな商機を立証できた。今年も8月を目途に開催予定である。

また、今日もスターレジェンドというクルーズ船が、アラスカ太平洋横断航路の途中で宮古港に来ている。昨年も5月と9月に来ており、また今年の4月25日にはダイヤモンド・プリンセスという大型客船が来たが、それらと釜石市でのラグビーワールドカップの開催を見据えて、昨年度から県と宮古市と協力して、インバウンド対策としてキャッシュレス決済やQRコード決済の講習会等を開催してきた。

その他に、日本政策金融公庫の国民生活事業で作成した指差しシートというコミュニケーションツールを飲食店に配布するなどの活動を行っている。

○熊谷さん

今日は商工会の監事という立場で参加しているが、私は商店街の会長も兼ねているので、どちらかというところちらの立場で話をしたい。

交通ネットワークについてということであるが、私が小さい頃は盛岡市まで行くのに車で3時間半かかった。今では1時間40分で行けるようになったが、それでも都市部から来る方は、1時間たってもまだ山で信号もないということで道に迷ったのではないかと不安になる方がいる。

小さい頃は大きな町の商店街に憧れがあり、地元の商店街に劣等感を感じていたが、今では岩泉町はこのままでいいのではないかと考えている。山に閉ざされてやっとたどり着いたら町があった

という感じでいいのではないかと思っている。これからの岩泉町の商店街は、地域で関わって全国に発信していきたいと思っている。

商店街は現在 30 店舗くらいで構成されているが、広島出身の方がお好み焼き屋をやっていたり、一昨年はこの町でパン屋をやりたいと東京からご夫婦が小学生のお嬢さんを連れて来たりと、刺激的な人が人生をかけてこの町に来ている。そのような方々は商店街の活動にも非常に積極的で、イベントをやる際には、得意だからとポスターやチラシを作ってくれるので、今では業者に任せないで得意な人に任せてイベントができるようになった。

歌手を呼んだり、落語家を呼んで蔵で落語会をするなど、空き店舗や雰囲気のある蔵を活用するなどして、お金をかけずに手作りのイベントをしていこうと実践している。

○大戸さん

私は宮古市出身・在住で、車で田野畑村まで通勤して 11 年目になる。当初は三陸沿岸道路もなく、1 時間以上かかっていたが、新たな道路もできて、今では 40 分程度で通勤できるようになった。

話は変わるが、私の妻は気仙沼市の大島出身で、先日の 10 連休の際に行ってきた。大島まで橋が架かり、多くの人に来てにぎわっていた。気仙沼に行くまでの三陸沿岸道路も大槌と釜石の間以外は新しい道路が通って、宮古市から気仙沼市まで 1 時間半から 2 時間ぐらいで行くことができ、交通の便が良くなったと感じた。

また、田野畑村で飲み会がある際は、三陸鉄道を利用しているが、田野畑村を出る最終電車が 9 時くらいでちょうどよいと感じている。

現在、商工会としてはイベントには特に力を入れておらず、小規模事業者の生産性向上の支援に力を入れている。昨年度は県復興局の三陸チャレンジ推進事業を活用し、新たに自家焙煎珈琲の喫茶店を開店した方の支援をした。

5 年前くらいに、宮古法人会田野畑支部の活動として、三陸鉄道を貸し切って震災の被災者を招待して食事会を開催した。

○島崎さん

私は、主に浄土ヶ浜レストハウスの運営を担当しているが、先ほどまでスターレジェンドのお客様対応をしていた。

今年のゴールデンウィークは長期間だったこともあり過去最高の売り上げを記録し、キャッシュレス決済のニーズが多くなったと感じた。現在、キャッシュレスに対応できる端末が 1 台しかなく、足りない状況となっている。今後、三陸沿岸道路が開通することで、期待度が高まるという思いを抱いている。

法人では公益事業と収益事業をやっているが、公益事業としては宮古駅前の観光案内所と田老の潮里ステーションの運営を宮古市から受託しており、案内業務はもちろんであるが、たろう観光ホテルを活用した防災ガイドを行っている。2012 年から実施しているが、2016 年までで来訪者が 10 万を突破した。震災ガイドは衰退することが多いが、根強い人気があり継続的に実施している。

イベント運営も手掛けており、ゴールデンウィークの浄土ヶ浜まつり、秋のサンマを活用した宮古浜焼きフェスタ、冬には宮古市で最大の動員数を誇る毛ガニ祭りを開催している。今年は過去最高の 2 万 1 千人を動員した。年々毛ガニの漁獲量が減り続けている一方、ニーズがあるので、代わりの食材を見つけなければならないという課題もある。

収益事業では浄土ヶ浜レストハウスにおいて、当協会の会員のマーケティング出展として観光客をターゲットとした商品開発を行っており、物販実績が伴い、地域の産業の活力につながるよう事業展開をしているところである。

今後とも、観光客の受け入れと観光客に来てもらえる事業を展開していきたい。

○川石さん

山田町では震災後も、震災前と同じようにイベントを行っているが、震災から8年経っても町のシンボルであるオランダ島での海水浴ができず苦しい状況にある。イベント等も含めてであるが行政に振り回されて終わってしまい、町民は何となくやって、終われば大したことがなかったと文句を言っている状況である。やはり町民そろってイベント等で観光客を迎えるという意識改革を進めないと先がないと思っている。15年ほど前に商工会の青年部で活動していた際に、宮古市の陸中建設の伊藤社長の提案で三陸連携という会議をやっていた際、津波が来たら明日は釜石だ大船渡だと言っている場合じゃないと言っていたが現実となり、悲しい思いがある。その頃は、地域連携についてよく勉強をした。例えば、鮭が捕れるのはみんな同じ時期であり、下閉伊地区で鮭祭りや牡蠣祭りなど地域が連携してイベントを開催してはどうか。三陸鉄道や三陸沿岸道路を生かし、来年には内陸からの道路も開通するので、それらを踏まえて少し先を見据えて協議会を作るなどし、地元みんなで協力できるイベントを考えていきたい。国からの予算があるからやるのではなく、自分たち民間が予算を取りに行くくらいの思いでなければならないと思っている。同年代の人たちとも、10年後に良い町になるためには自分たちが頑張っていかなければならないと話している。ここは京都や大阪や北海道ではないので、与えられたものをこなすだけでなく、自分たち地域が声を上げていかないといけないと感じている。

○小原さん

当社の宮古支店は、昨年6月1日に宮古港フェリーターミナルビルの落成と共に開店し、同月22日には宮古港から室蘭港に向けて就航第一便が走り出し、間もなく1年経とうとしている。想定していたことではあるが、就航当初は三陸沿岸道路の未開通区間が残っていたため、航路の屋台骨となるトラックの乗船が少ない状況であったが、昨年度、三陸沿岸道路が相次いで開通したことにより最近では宮古港から乗船するトラック等の貨物車両が就航当初の倍近くまで増えてきている。今後、さらに開通区間が増え、全区間が開通した際は、航路の利便性が認識され、より一層の利用の増加につながると考えており、これからが正念場ある。

一方、観光やビジネスなどで乗船される一般のお客様の利用状況については、昨年度は当初の予想より若干低調であったが、今回の大型連休は三陸防災復興プロジェクトの協賛である1周年記念割引キャンペーンの効果もあり予想を大きく上回る利用があった。

次の繁忙期であるお盆の時期にもこのペースが維持できればと考えている。

この航路が地域を盛り上げることに役にたてるよう努力していきたい。

○佐々木さん

出身は花巻市の石鳥谷であり、去年の5月に赴任し1年経った。母が宮古市の出身であり、この地域には縁があると感じている。

現在は、単身赴任中で、一、二週に1回花巻市に帰っている。こちらに赴任した当初は国道106号から国道4号を通過して帰るのに2時間15分ほどかかっていたが、復興支援道路の立丸峠が開通し、また、三陸道と釜石道がつながり、どちらを通過しても2時間くらいで行き来できるようになった。国道106号の新たな道路が開通すると宮古から盛岡まで1時間半と言われているので、花巻市も通勤圏内になるのではと感じることもある。

当社は募集旅行を中心にやっている。県内のお客様を近隣、全国の観光地へ送るものが主である。その他には、インバウンド対策として台湾に事務所を置いて台湾からのお客様の受け入れを進めている。宮古支店では宮古周辺のお客様の旅行のほかに、宮古地域で行われるイベントに合わせて内陸からのお客様を連れてくる募集旅行の立案をしている。昨年度、宮古室蘭間のフェリー航路が開通したので、それを利用したツアーの造成や、北海道からこちらにいらっしゃるお客様の対応のた

めに、道南のいくつかの旅行会社とタイアップして、こちらで受け入れを引き受けていた。

私は、花巻市出身であるので、内陸から見た宮古と、宮古から見た内陸という両方の見方ができるので、両者をうまくやり取りしてさらに発展させていきたいと考えている。

また、沿岸地域の個人の旅行消費動向は、まだ低迷しており、沿岸地域からの旅行申込数は全体の1割くらいであるので、これを上向きにするよう努めていきたい。

春から三陸鉄道が全線開通し、当社のグループ会社である県北バスでも2階建てバスを106急行に導入することに決定したので、お客様の関心を得られれば良いと考えている。

○金野さん

今年3月に、関係者の協力のおかげでJR東日本から宮古釜石間の山田線の移管を受けて、大船渡市の盛駅から久慈駅までの163キロ区間を無事開業することができた。関係各位に感謝する。

3月の開業時と今回のゴールデンウィークは非常に利用者が多く、臨時列車や車両の増結が多くあった。今日も午前中運転してきたが、運転士がぎりぎりの体制である。地元や遠方のたくさんの方に利用いただいている。それでもやはり三陸鉄道は、まずは地元の高校生や御高齢のお客様を目的地までお届けするのが一番大きな使命である。そうは言っても地域の人口構成から地元の方だけの利用では運営が難しい。三陸鉄道は開通して35年を迎えた。35年前の開業の頃は朝の列車に300人も400人も乗っていたが、現在は1列車に100人くらいしか乗っておらず、実際の人口減少よりはるかに利用者が減っている。道路の開通や車の普及による影響もあるが、沿岸部の人口や子供の数が減っていることを毎日の利用者の状況を見ながら感じている。

三陸沿岸道路が出来て移動が速くなったと盛んに言われているが、三陸鉄道は盛駅から久慈駅まで4時間半くらいかかり、自動車の1.5から2倍くらいの時間がかかるが、その分時間を活用してゆっくり景色を見て、食べたり飲んだりしていただきながら旅行を楽しんでいただきたい。それに合わせて地元の人に使ってもらいたいと考えている。

今後は、6月からの三陸防災復興プロジェクトでも三陸鉄道のイベント列車を走らせるし、それ以外の各地のイベントでもお客様が列車を利用されることを期待している。また、9月からのラグビーワールドカップでも会場が鶴住居駅から徒歩数分の所にあり、お客様があまりにたくさん来ることへの対応をどうするか警察等と検討している。

さらに、その先をどうするかが課題と感じ、どう取り組んでいくかを日々考えている。

◆ 意見交換

○樋下正信議員

岩泉商工会の熊谷さんから、岩泉へ行く道路はこのままでいいのかなというお話があったが、実は最近岩洞湖の近くで交通事故があり、私の知り合いが亡くなったこともあり、道路は改良されていた方がいいと思う。安全な通行のためもあるが、観光面でも役に立つと思うがいかがか。

〔回答：熊谷さん〕

ちょっとはしよった言い方をしたところもあったと思うが、一方で、法定速度を明らかに超過するようなあまりにも無謀な運転する車も多くある。以前は、カーブが多くて安全運転しなければ通行できなかった。我が物顔ですごい速度で走行する人もいる。だから道路がそのままがいいということではないが、交通のモラルと道路整備を両輪で進めていかなければならないと思っている。

○城内よしひこ座長

町並みはこのままで、道路は改良した方がよいという感覚か。

〔回答：熊谷さん〕

小さい頃は岩泉を田舎だと劣等感を持っていたが、今となつてはこのような田舎がいいのかと思っている。むしろ自慢したいと思っている。全国からこの町で頑張りたいと人が来ていて、ここで結婚して道の駅の支配人をしている人もいる。県から補助金をもらって町内外、県外から仲間を呼んでイベントをやっているような女性もいる。私たちができなかったようなことを続けてもらっている。そのような方々を巻き込んで活動しており、その方々には感謝している。

○樋下正信議員

龍泉洞はもっと奥まで続いているような気がするのだが、そのような調査はしていないのか。

〔回答：熊谷さん〕

毎年シーズンオフになるとケイピングクラブの方々が来て探検・調査をしているが、観光客に見せるのは現在のところで限界なのかと思っている。階段も急であるしお客様に負担のかかる距離となってしまう。

○佐々木努議員

本日のテーマにある大型イベントは、ラグビーワールドカップや三陸防災復興プロジェクトを想定している。間もなく三陸防災復興プロジェクトが始まるが、現在、それぞれの地域の盛り上がりはいかか。また、将来の地域振興に向けて、大型イベントに対する期待感をどのように持っているのか。大型イベントを続けていくことが震災復興や沿岸振興に必要なだと考えているのか。大型イベントを開催することに対しての率直な思いを聞かせてもらいたい。

〔回答：宮本さん〕

補助金があるから事業をする、しないということを考えると難しいところがあるという気もする。ただ、地域活性化のためには必要な部分もあると思ひ、一概には答えを出せない。

〔回答：熊谷さん〕

刺激策としては面白いと思うが、終わった後に、何のためにやったのか、次にどうつなげるかが大事。イベントが終わった後の方が重要と考える。

〔回答：大戸さん〕

今、田野畑村ではイベントをやっていない。動ける人がいなくなってきた。個々でイベントをやれないので、地域で連携して大きなイベントをやればよいと思う。

〔回答：島崎さん〕

イベントは突発性があり、集客力もあるので来てもらう良いきっかけになると思う。その後継続的にお客様がいらっしゃるかは各地域の頑張り次第であり、イベントの必要性はあると思う。

例をあげると平成4年の三陸博の際、宮古市への観光客の入込数は265万人で過去最高である。現在は110万人くらいと減少傾向で、開催後の対策が弱かったと感じる。ある程度の反動はあるとは思ひが、その後に各地域で食などの観光資源をイベントに来た方に発信できる場があればよいと思う。今回ラグビーワールドカップなどの大型イベントが開催されるが、来年の三陸沿岸道路の開通に向けて再び来ていただくきっかけになると思ひ、イベントの重要性はあると思ひ、継続的なイベントの企画は必要と考える。

〔回答：川石さん〕

ラグビーワールドカップについては、山田町では関心が低い、ワールドカップなのになぜだろうとは思っている。三陸沿岸で一緒になってやっていこうという機運が薄く、他人事のように感じている。当日は世界中からかなりの人が来るだろうから、警備等で人件費もかなりかかるであろうと思う。私としては、大きなイベントをやるより、三陸沿岸は365日ゆっくり来てもらえる場所であった方が岩手県らしいと感じる。大きなイベントを開催して、年間何百万人という人に来てもらうということを目指にするのではなく、少しずついいのでゆっくりお客様にきてもらえる地域が岩手県であると思うので、自分たちの地域を県内外、世界中に発信できればいいと思う。当町も国内外のお客様が多いが、いつ来ても素晴らしいと褒められる。新緑や紅葉など本当に喜んでもらえる。食べ物も国内でもトップクラスのものを持っていると思うが、それをなかなか発信できないでいることがもどかしいと思っている。

〔回答：小原さん〕

今年はラグビーワールドカップと三陸防災復興プロジェクトが2大イベントであると思う。三陸防災復興プロジェクトは、お客様を呼ぶだけの趣旨ではなく、復興という名前がついていることもあり意識を高めるということも含まれていると思う。期間も長く多くのイベントをやるようであるが、私は概要を見てあまりにもやることがいっぱいありすぎて、逆にインパクトに欠けるのではと感じるところもある。お客様を呼ぶのであれば、もう少し分かりやすいやり方があったのではないかとも思う。イベント自体は人を呼ぶきっかけづくりになると思うし、人の動きを知ることのできるのも、やる意味はあると思うが、やり方の工夫がもっとあっても良かったのではないかと思う。

〔回答：佐々木さん〕

大型のイベントは人を呼ぶ起爆剤にもなるし、ないよりはあった方が良く思うが、それを生かせるかどうかはそれに携わった人次第かと思う。皆さんからお話しがあったようにイベントが終わった後にどのようにもっていくかが課題であると思う。ラグビーワールドカップは今年1回限りではあるが、終わった後に鶴住居のラグビー場をどう活用していくのかは興味がある。ラグビー場として生かしていくのであれば、八幡平市ではラグビーの合宿を行っているようであるが、釜石もラグビーの聖地として、合宿を誘致するというのもあると思うし、これを機にラグビーのイベントや試合誘致などをやっていけば盛り上がるのではないかと考えている。

宮古には先日も大型クルーズ船が来ているが、秋にも商船三井客船株式会社の日本丸が来る。船が入ってくる際に宮古に商機があるのではないかと感じる。去年宮古室蘭間のフェリーに乗船した際、宮古に戻ってくるときに見た宮古湾が非常に美しかった。入航をもっと増やして、それを周知してもらいたい。

〔回答：金野さん〕

三陸鉄道はイベントに直接かかわるので、大型イベントはありがたいと感じる。

35年前の開業時や、震災後にあまちゃん等様々なところで三陸鉄道の名前を出してもらえ、遠方の方に三陸鉄道の名前を憶えてもらっているということがありがたい。大型イベントは名前を売る効果は非常にあると思う。売り込んだ名前をその後どうやってつなげていくかは我々を含め地元の人等が考えていかなければならない。

大型イベントがたまにあるのはいいとは思いますが、年間通じて定期的に提供できるものがあることによって、人の流れや交流ができる。それによって地域の人にも動くようになり、元気になっていくこともあると思う。

○齊藤信議員

三陸鉄道に期待している。3月30日に三陸鉄道に乗った。2両編成で入口が一つしか無かったが、ワンマン運転だからそのようになるのか。

また、宮古市役所が駅前にできた効果がどう表れているのか。あと、新しい区間で新駅が2つできたが、新駅の効果が今の時点でどういう形で表れているのか。おそらく今年は色々なイベントがあるので、それなりに三陸鉄道が使われると思うが、5年、10年と先を考えたとき、地元の利用を減らさないで維持する必要がある。内陸からの交通網もよくなってきており、今まで以上に、三陸鉄道、三陸地域に人を呼びやすくなっていると思うが、観光のルートで新たな客を呼ぶといった点で、現在の宮古市役所、新駅の効果、その後の戦略についてお聞きしたい。

山田町の川石さんにお聞きしたい。三陸道が整備され、鶴住居から大槌町までつながったら、考えられないくらいの効果だと思う。一方で、例えば新聞でも書いていたが、船越の道の駅がスルーされるストロー現象が起こるのではないかと。三陸道の効果と、ストロー現象といった問題にどう対応していくのか。地元はどうやって寄ってもらい観光してもらおうか、遊んでもらおうかといった点で、新たな知恵と工夫が必要ではないかと感じたがその点について伺う。

〔回答：金野さん〕

ドアの件についてはワンマン運転ということで、バスの乗り降りと同じようにご利用いただいている。ただ、ゴールドウイーク中などは、日中の列車に車掌を乗せて、全部のドアを使っている。特に、宮古釜石間は全部の車両に車掌を乗せて、2両ないし3両にして、全てのドアを開けてお客様にご利用いただいた。時期によって、お客様の数を想定しながら対応させていただいている。

宮古市役所移転の効果については、市役所の職員の方に通勤定期を購入いただき利用していただいている。津軽石、山田町といった南の方面から通勤する方も出てきている。地元の方に利用していただいているありがたい点は、定期券を一枚買っていただくと、一人が行って帰ってくるのが30日分ということで、一ヶ月60人と計算できることである。60人というのは、例えば、バスで2回団体を連れてきたのと同じくらいの効果がある。さらに、継続購入していただけるので、一年間の利用者数を大体読めるという大きな効果があり、地元の方の利用はありがたい。

いままで、南北リアス線を運行してきたが、全線開通後にこれまでとちょっと違うと思ったことがある。これまでは田野畑村や普代村などから、朝に久慈市や宮古市に向かい、夕方に帰るといった流れが大きな流れであるが、新たに開通した区間は昼間でも、山田町や大槌町に向かっていくなど人の乗り降りあり、常にお客様の動きが見えるという違いがある。

弘川駅と八木沢駅の二つの新駅だが、以前に山口団地駅が開業したときは、想定していたお客様より大分少ない利用しかなかったが、八木沢駅と弘川駅はこんなに利用してもらえるのかと思うくらい利用者があり、順調に動いている。将来的なことについては、地元の学生が減っていくことは間違いないので、どこに目を向けるといって、一つは間違いなくある程度の数がずっと続く高齢者の方である。もう一つは三陸道が開通することにより、色々な方から高速道路できて大変だねと言われるが、もともと車を運転できる方は三陸鉄道を使わない。どのみち使わないのであれば、県北観光さんが仙台市からバスでお客様を運んできて観光に来た際、ずっとバスに乗っていると飽きるのでは、ちょっと目先を変えて30分位、列車でも利用しようかというお客様に使ってもらうのもありだと考えている。三陸道が仙台市まで全通し、仙台市から三陸や盛岡市との時間距離が縮まれば、盛岡市に来たお客様も沿岸にという芽がでてくるので、そういった方々を捕まえる。今度はそういった方々が乗ったり降りたりする所で、それぞれの地域がそのお客様をどうやって引き留めて、どうお金を落とさせるか、時間をつぶさせるかをみんなで考えていけばいいと思う。

〔回答：川石さん〕

山田町では今年の12月から、インターチェンジから200メートル位入った所に大型の観光施設を開設するということが決まり、開設に向けた協議を行っている。ただ、施設を作るのは国からの補助などがあり簡単だと思うが、10年後も開店したときと同じようなレベルを保てなければ、負の遺産を残すだけなので、やる必要があるかどうかの議論もしている。

三陸道はパーキングを作らず、トイレを使うときには一般道に降りてくれ、だから無料にするからという意味でトイレをつくらないと自分は思っている。そういうことと連動するには、国からの補助があるからやりましたではなく、本当に魅力のある、ここに来れば美味しいものを食べられるし、美味しい物を買えるという観光施設を山田町に作りたい。美味しいものを食べさせることができないと人は来ないと思う。町内の飲食店でも工事関係者がいなくなる前にもっと美味しいものを食べてもらえば良かったと言っている。金儲けに走るのではなく、美味しいものを食べてもらったらまた来てくれるだろうし、ここはそういう地域だと思う。今回作ろうとする飲食ブースも、ごく当たり前の施設ではお客様は呼べないと思っている。自分の会社では、5年前から奥州市の産直の鮮魚部門をやっている。毎日トラックを走らせており、自分も週に一回は行っている。時間帯によっては2時間半くらいかかるが、早朝だと1時間50分くらいと非常に近い。そこでの話になるが、塩蔵ワカメを売っていたら、社長これどうやって戻すのと言われ、水で戻すよと言ったら、お湯で戻すのではないかと何人にも言われたのでアンケートをとったところ、70%の方がお湯で戻すとのことだった。全然食べ方を知らなかった。自分たちのコンセプトは朝獲れたものを、その日に水沢で食するというので、いまは朝獲りのイカを普通に食べられるようなシステムを作っている。沿岸地域では大根おろしで食べることが多いが、買い物に来てくれるおばちゃんなど色んな方に食べ方を教えると美味しかったと言われる。同じ岩手県なのに、ワカメの戻し方も知らないのはおかしいと思い、まずは県内からの観光客誘致から始めるのがいいのではないかと考えている。

○田村勝則議員

私は職業が神主なので伝統芸能についてお聞きしたい。沿岸には沿岸ならではの伝統芸能があると思う。例えば、セツ舞、鶉鳥神楽、黒森神楽、虎舞、そして伝統芸能にはいってないかもしれないが山口太鼓なども含めてイベントに活用していくことが、これからの復興につながっていくのではと思っており、さらに活用にあたっては団体同士の連携がさらに必要だと考える。本日は観光協会の方二人に参加してもらっているが、例えば今回の連休などにそういったイベントを開催したということがあればお聞かせいただきたい、また、私の意見にご感想があればお聞かせいただきたいと思う。

〔回答：川石さん〕

盛岡の方はあまり感じないと思うが、沿岸の人、特に大槌町や山田町の人はお祭りで非常にヒートアップするが、神様のことなので、一緒にやるのは難しいと思う。ただ宮古と山田は同じ八幡さまなので、調整できれば一緒にできるかと思う。お祭りは人を呼ぶのに非常にいいと思う。宮古市から釜石市まで、更に三陸鉄道、三陸道沿線の全部のお祭りを使ったら本当に素晴らしいことができるのではと思う。

○田村勝則議員

お祭りとは別に、伝統芸能としても凄く魅力がある。去年、プリンスホテルで行われた牛のイベントでセツ舞を見たが、すごい迫力だった。もっと活用していくべきと思っている。

〔回答：川石さん〕

岩手県は小学校の授業で郷土芸能を学んでいることが多く、自分が勉強していたころは全国でも断トツの一位だった。なので岩手県民には喜ばれると思うが、果たして県外から来た人が見たら何をやっているのかと思われないかという心配がちょっとある。山田町の海の中で担いでいる神輿の情報などをもっと発信して見せたいと思う。

〔回答：島崎さん〕

伝統芸能についてまだまだ勉強不足だが、イベントを通じて魅力を発信することは非常に大事だと思う。山口太鼓は伝統芸能ではないかもしれないが、迫力もあり、子どもも参加していることもあり、ファミリー層といった方々のリアクションがいい。

文化の継承という部分では何か策を練る必要はあると思う。インバウンドのお客様も日本の文化に触れるということにとっても興味があると思うので、まずは日本国内、地元から情報を発信して波及効果をもたせインバウンドにつなげていくことが理想的だと思っている。

○伊藤勢至議員

東日本大震災津波からの復興の取り組みで三陸地域は一体という気運が芽生えているのではと思うので、市町村の枠を取り払って、沿岸地域は一つというまとまりを作り、対応していかなくてはならないと思っている。

今日は、新たな交通ネットワークの活用ということがテーマだが、昭和45年の岩手国体の時は盛岡宮古間が車で3時間かかった。その後に改良が進み、現在は、宮古市役所から盛岡市役所までの距離が約100kmだが、国道106号の改良が終わると約80kmに短縮される。沿岸から日帰りでも内陸に仕事に行くことも十分に可能になってくる。そういった場合に、内陸の人達に沿岸に向かってもらう動機づけになるのは海だと思う。盛岡広域圏47万人の人達は時間距離が短い、あるいは日本海の水温がぬるいといったこともあり、秋田港を向いている。その人たちの考えを変えてもらうには、日本海ではハタハタ位しか獲れず、大きい魚は太平洋でなくては獲れないという位の気持ちをもって頑張りたいと思う。そのためには、まず盛岡の人達が秋田港に預けている、プレジャーボート、ヨット、モーターボートといったものを宮古港で受け入れるということを進めていくべきだと思う。

それから、さきほど熊谷さんがおっしゃったように開き直っていくことでいいと思う。都会ナイズされなくても、都会に無いものを私たちは十分に持っていると思うし、そこに立ち返るべきだと思う。

花巻空港から岩泉町までの時間がトータルで30分短縮になった。これに押角峠の前後の区間宮古側が2キロ、岩泉側9キロを二車線に改良することで、花巻空港が近くなった効果を初めて田野畑村、普代村でも享受することができると思っている。

台湾に続いて、上海の定期航路も開通した。押角峠の前後区間を開通させることで岩泉町、龍泉洞経由でグリーンロードを通して普代村まで行って、黒崎灯台を見る。あるいは田野畑村まで行って北山崎、机浜番屋群、続けて田老の三王岩、宮古の浄土ヶ浜、釜石大観音をぐるっと回るといったような新しいコースが設定できると思う。そういうところまで視野にいれながら、三陸は一つだと垣根を越えて、皆さま方がまとまって、行政を動かすという行動をとっていきべきで、行政がやるのを待っているべきではないと思う。

対北海道についてだが、東日本ハウスという会社があり、現在は日本ハウスホールディングスと名前が変わったが、初代社長は中村さんで、二代目の社長は宮古商業高校を卒業した藤澤さんという方である。東日本ハウスで相当な営業成績をあげ、たった一人で北海道に転勤して、下請けから全部自分で調達し、150棟位の成果をあげて2代目の社長に就任している。北海道は面積、人口共に岩手県の4倍で可能性があるはずなので、若い方々にはそういう視野も持ってもらえばいいと思っている。せっかく川崎近海汽船さんが橋渡しをしてくれた。こっちから行くのも、向こうからくるのも、

行ったり来たりして商売だと思うので、それを具現化するには、それぞれの誇りがあるのはいいと思うが、自分のテリトリーに留まらず、三陸は一つというゾーンでやる必要があるかと思っている。皆さんに大いに期待している。

○臼澤勉議員

伊藤勢至議員の話も関連するが、三陸沿岸をゾーンでとらえるべきだと思う。今回、宮古港には、ダイヤモンド・プリンセスやスターレジェンドなどが、宮古港をゲートウェイとしてダイレクトに入ってきた。そこではじめに、この方々はどのような所を周遊したのか、あるいはどのようなニーズがあったのかお伺いする。

二つ目、今日はテーマが「新たな交通ネットワークを活用した地域振興」ということで鉄道、バス、フェリーといった交通事業者もいるが、この地域を訪れた方々がこの地域を周遊するという商品開発や取り組みの検討などがされているのかお聞きしたい。具体的にいえば田野畑村のサップ船や北山崎、龍泉洞といった観光資源もあるが、豪華客船で来たお客さんには、目線を変えて歩きたい、鉄道に乗りたいという方もいると思う。船できたけども小型船でスリリングな宮古の青の洞窟などのアドベンチャー的な体験をしたいというニーズもあるのではないかという気がするが、そういう商品開発を含めて観光協会などと連携したりするといったお考えはあるのか。

【回答：島崎さん】

今回のダイヤモンド・プリンセスのお客様の動向としては様々なコースがあり、そこから班に分かれて行動されている。これは県北バスさんが企画されたのか。

【回答：佐々木さん】

県北バス企画したものではなく、船内のオプションツアーを受け入れたものである。船会社があり、それに関わっている旅行会社があり、そこから委託を受けたもので、何コースかあった。

【回答：島崎さん】

恐らく東武トップツアーズさんがメインの旅行会社になっていると思う。浄土ヶ浜や龍泉洞を回るコースや、インバウンドを受け入れるところで日本の文化に触れられる遠野市とか内陸の南方面などコースは選んでも、そこから個人毎に選べるものはなかったのので、アンケートを収集するにしてもコースのアンケートしかとれないと思う。それについてはトップツアーズさんとか、弊社のDMOもあるので、そこでアンケート収集したうえでの判断になると思う。

今後の話になるが、今回の外国船の受け入りで、うちのレストハウスでは海鮮丼を提供した。日本食ではあるが、地域でしか食べられないものということではインパクトが薄かった。外国の方はそこでしか食べられないものを好まれるので、海鮮丼の具を瓶に入れて、それをかけて食べるという宮古の瓶ドンなど、そういったものを提供すればよかったと思う。今後はそういった展開をしていきたい。盛岡でいえば、わんこそばがある。間髪いれずに蕎麦が入ってくるということ自体がインパクトがあると思う。三陸でもそういっためずらしいもの、代わり映えのあるものを提供できるようにすれば満足度が上がるのではないかと思う。

外国人向けにメニューを提案すると逆に日本っぽくなるので、そういった工夫はいらないのではないのかと思う。あとは、船に乗っていくので、再度船に乗りたいのかということ、私個人の考えだと違うのに乗りたいたいのではないのかと思う。今回の寄港では、三陸鉄道にはかなり乗られたのではないのか。

〔回答：金野さん〕

かなりご利用いただきました。ただ、ツアーのお客様ではない、個人のお客様がふらっとくることが非常に多く、私も驚いたのが、島越で観光船に乗る方がいっぱいいた。船で来て、また船に乗りたいのかという話をしていた。南側にも北側にも行った方もいたので行先はばらけていたと思う。

〔回答：佐々木さん〕

大体3,000人入港した中で、船内で事前に紹介しているオプションツアーに参加した人がどれだけいるか把握はしていないが、仮にバスを30台用意して40名ずつ乗ったとしても1,200人位なので、半分にもならない。宮古港に着いてオプションツアーに参加される方、そもそも船内から出ない方、予定の決まっていない方がいたが、宮古駅前までのシャトルバスを出させていただき、なおかつ、運行案内をさせていただいた効果が個人観光への効果につながったと思う。

当日は、私も最初の送迎バスが着いた直後からいたが、浄土ヶ浜行きバス停に一度に70人位並んでしまい、びっくりする位の状況だった。県で三陸鉄道の小本駅から龍泉洞までのシャトルバスも出していたが、観光案内の効果があつたのか、フリーの方が小本駅で降りて、そこからバスに乗って龍泉洞に行ったという、フリーな感じで楽しんでいる方も相当数いたのではないかと思った。

○城内よしひこ座長

補足として吉田宮古地域振興センター所長から情報はないか。

〔回答：吉田宮古地域振興センター所長〕

船内で東武トップツアーズさんが代理店をしており、そこから船外に出る方、それ以外に船内にとどまる方、フリーで外出する方々もいた。県で、広域用のマップを作り、マップの中に観光地や三陸鉄道のスケジュールもいれ、何時の列車に乗って行き、何時の列車で戻れば船に戻れるという案内もした。あとは、市の観光課と県で駅などの要所で丁寧に誘導をさせていただいた。開けてみないとわからなかったが、ダイヤモンド・プリンセスの寄港時は田野畑村にも観光客に来てもらったという話や、山田町にも来てもらった、三陸鉄道にもいっぱい乗っていたという話を聞いて、用意していた取り組みがうまくいったと感じている。今後もそういった形で地域にお金を落としてもらい、地域を観光してもらえるように頑張りたいと思っている。

○小野共議員

島崎さん、宮本さんにお聞きしたい。キャッシュレスの支払いについて具体的な問題、課題があったら教えていただきたい。果たして上手くいっているのかお伺いしたい。

もう一点、商工会議所の方針として、商店街の英語の表記について、どういった方針で行っているのか。釜石では進んでいないので宮古の取り組みの状況について伺う。

〔回答：宮本さん〕

キャッシュレスについては、県と宮古市と協力しながらセミナーなど開催してきた。

カード決済については、カード会社によって手数料などの違いがあり、踏み切れていない事業者もいる。商店街でみると震災後、グループ補助金を活用させていただいた、いわて宮古街なか商人グループでは、ヤフーのPayPayを導入した。PayPayは今のところ手数料が0%と聞いている。QRコードを読み込み、自分でスマホに金額を入力してOKのボタンを押さないと処理できないと聞いている。いずれキャッシュレスの導入を進めていかなければならないと考えている。

そのような中で、今回、岩手県で総務省のキャッシュレス決済の実証実験をすると聞いている。今

まで話したのは経済産業省の補助メニューだが、今回は総務省の補助と新聞報道があった。

端末については無償の場合と有償の場合と条件がいろいろあるようである。小型のプリンターもあり、その組み合わせ次第かなと思っている。商工会議所に各企業から一番どこがいいのか問い合わせがあった場合、どこがいいと言えないので、判断は皆さんにお任せしている。今後、地元消費だけでは、導入が進まないし、インバウンドで外貨を獲得し稼がなくてはならないので、キャッシュレス導入については推進している。

○小野共議員

キャッシュレス決済がいらぬという方はどういう方か。

〔回答：宮本さん〕

年配の事業者は、理由を聞くと面倒だし、歳をとっており、いつ店を閉めるかわからないと言われる。せつかく外国人が来て買いたい物があつたときに売り上げがその分減りますよと言っても、うちはいいですよと言われたことはある。そういったこともあり、高齢の事業者だけでなく、英語表記についてもキャッシュオンリーとか、クレジットOKの表記を昨年スターレジェンドが来た時に市と協力して行った。クレジットカードについても、どこの会社のカードを扱っているのかわかるように、市に会社のマークを作ってもらい、レジカウンターに置いて使っている。実際に店に英語表記をしているのではなく、そういう対応をしている。

新聞報道によると、ダイヤモンド・プリンセスが来年も2回宮古港に入港する予定なので、その前にはインバウンドに備えて英語表記をどうしていくのか検討が必要かと思う。

○小野共議員

先月、ダイヤモンド・プリンセスが入港したとき外国人旅行者からの苦情はなにかあつたか。

〔回答：宮本さん〕

私は把握していない。港に岩手銀行が臨時の両替コーナーを設けていたことは聞いている。あとは、キャッシュレスで決済したことは聞いている。

〔回答：島崎さん〕

対応した中では、インバウンドの方は意外と現金で払っている印象があつた。日本紙幣を扱ってみたいということもある。キャッシュレス決済の受け入れ体制はあつた方がいいと思う。逆に今回のゴールデンウィークでは首都圏の方がメインでいらつちゃって、そこで交通系などの電子マネーの利用者数が多く、レジが1台では足りなかつた。

クレジットカード会社の考え方としては、カードで支払うので現金払いと比べて金銭感覚がゆるくなり多く使ってもらえるようなので、手数料に抵抗があればそういう考え方でやってもらいたい。需要があるので普及することは大事だと思う。

○城内よしひこ座長

皆さんからご要望等があればお伺いしたいがいかがか。

〔回答：宮本さん〕

いろいろな補助金を使う際、社団法人等だと使えない補助金が結構ある。各団体等が、いろいろな物を導入したくても、導入できないこともあるので、縛りやくくりをもう少し考えていただければいいと思う。

○齊藤信議員

グループ補助金を利用して水産業、加工業含めて多くの企業が事業を再建している。再建から5年が経過して、補助金の4分の1の返済が始まっているところが多くなっていると思う。私のところでは、県の高度化資金を使った人達の動向は把握しているが、圧倒的に民間の金融機関を使ったところが多い。そういう点で返済の時期を迎えた事業者が順調に返済をされているのか。それとも、いろいろな相談が商工会議所に出されているのかお聞きしたい。

〔回答：宮本さん〕

グループ補助金については宮古地域振興センターと一緒に、事業者と商工会議所の職員が訪問して実態確認調査を行い3年目になる。その中で、何かあればその都度対応している。調査件数は結構あり、その中で相談があればその都度聞いて、県にこういう状況なので、どうにかかりますかという報告をしながら県と連携をとりながら進めている。

◆ 感想など

○城内よしひこ座長

最後に、本日の意見交換会の感想も含め、一言ずつご意見をいただきたいと思う。

〔回答：金野さん〕

県議会議員とのこういった機会もなかなか無いこともあり、我々の思っていることを聞いていただくことはいい機会だと思っている。また、業種の違う方と話をすることは日々の仕事の参考になる。こういう機会があればまた参加したい。

〔回答：佐々木さん〕

普段は同じ職場で凝り固まって仕事をしているので、議員や参加者の皆様と意見交換できたことは刺激になった。こういった機会を通していろんなアイデアが出てくれば良いと思う。

〔回答：小原さん〕

参加者の皆さんとお話ししたり、聞いたりすることもめったになく、色々参考になるお話も聞けてよかった。

〔回答：川石さん〕

宮古市、下閉伊地区などと連携できればいいと思った。今日を自分のスタートにできればいいなと思う。非常に楽しくいい機会でした。

〔回答：島崎さん〕

現場で仕事している機会が多く、こういった機会は少ないので、いい経験になった。また呼んでいただきたいと思う。

〔回答：大戸さん〕

今日の会議に挑むべく、北山崎の飲食店、土産屋の3者に状況を聞いてきた。前半の4日位までは観光客がすごく来たけど、後半は少なかったようだ。そのあたりもいろいろ話したかった。

〔回答：熊谷さん〕

皆さんの話を聞いて、イベントにしても、道路整備についてもそこに人が介在するのだと感じた。

人ありきの人の存在感を感じられる地域にしていきたい。それを痛切に感じたのは東日本大震災であり、台風第10号である。例えばここに一杯のラーメンがあったとしても、これを食べるまでに物流、獲る人、作る人、生産者、梱包する人、誰一人欠けても成立しない。危機感を思い出せば、おもてなしの気持ちがおのずとでるかと思う。

〔回答：宮本さん〕

いろんな話を聞いた。今後も商工会議所としてもいろいろやっていきたいと思うのでご指導お願いしたい。

◆ 感想など

○城内よしひこ座長

東日本大震災津波を経験した我々の地域は、これまでにないスピードで道路などの整備がされてきている。熊谷さんの話にもあったが、これまで我々のところは道路網も整備されておらず、高速交通網もないのでなんともならないという言い訳ができた時代もあったかと思うが、これからはすべての道具が整ったうえで、言い訳ができない時代が来たと思う。そういう中で今日いらした皆さんと大きな意味での連携をこれからしなくてはならないと思う。点での勝負でなく、線にして面にしていくという形をとっていかないと、これからの三陸はなかなか成り立っていかないと感じた。なにより、人が減ることが想定される中で、どうやって盛り立てていくかは大きな課題だと思う。

話は変わるが、退官される中国の程永華駐日大使が言った言葉が記憶に残る。「民を以て官を促す。経済をもって政治を促す」という言葉が中国にはあるとのことである。皆さんが声をしっかりと大きくあげられる仕組みを作っていないといけない。我々もこうして出向いても地域の課題の氷山の一角しか触れていないと思っている。そういったことを引き出して県政に反映させていきたいと思う。

最後に程永華駐日大使が言ったことで「上に政策あれば、下に対策あり」という言葉がある。我々が作る政策も全ての人のためを思って作っているが、全ての人のためになっていない部分もあるので、しっかりとそういった意味での対策を含めて、皆さんも日々の活動をしていただければ、我々もその部分を受けて、しっかりといいものに改善できると思っている。

今日は貴重なお話をうかがった。同僚の議員にもいただいた意見をしっかりと伝え、県政に反映させるよう頑張っていく。

本日は、お忙しいところ、御参加いただき感謝申し上げます。

以上で、意見交換会を終了させていただく。